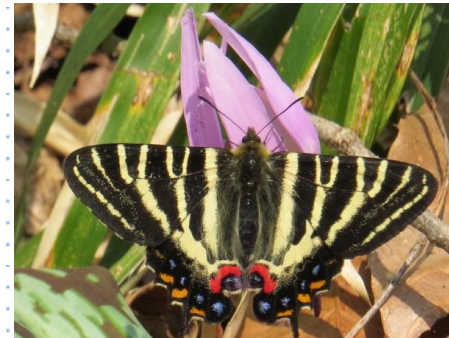


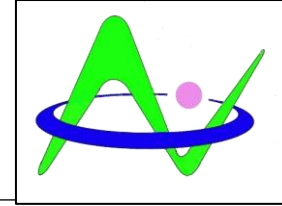
カタクリとギフチョウの谷



西山自然保護ネットワーク



西山自然保護ネットワーク



1999年 乙訓の自然を守る会の呼びかけで設立

カタクリとギフチョウを中心に
小塩山の自然を保護するボランティア団体

春の妖精 カタクリの花



・カタクリ

早春に落葉広葉樹林に咲く 春の妖精と呼ばれている
冷涼な環境を好み、西日本には非常に少ない

春の女神 ギフチョウ



京都府天然記念物

小塩山（642m）のカタクリ・ギフチヨウの谷





4月になると
たくさんの方が
カタクリ観察に
登ってきます。



5月の炭の谷

コナラ林の若返りのために
部分皆伐を行った炭の谷には
5月になると、ツツジが
咲き誇り、美しい姿を見せて
くれました。



初夏の林

コナラのコナラ林



冬の小塩山

雪化粧したカタクリの谷

問題と対策の経緯

設立初期 コースロープを張って登山者の踏みつけ防止

2007年 シカによる食害 防獣ネットシカの侵入防止

2018年 イノシシの侵入 防獣ネットの補強中

炭焼き後70年 里山の放置 常緑樹の伐採 落葉広葉樹林の再生

シカが増え食害により カタクリの花が減ってきました。
2007年から、次々と防獣ネットを張りました。

**2007年
Nの谷**



**2009年
炭の谷**



**2010年
御陵の谷**



防獣ネットの効果

- ネット内側は青々とネット外はシカに食べつくされてしまいました

炭の谷下部(2012年4月)



ネット
外側

ネット
内側

Nの谷下部(2011年4月)



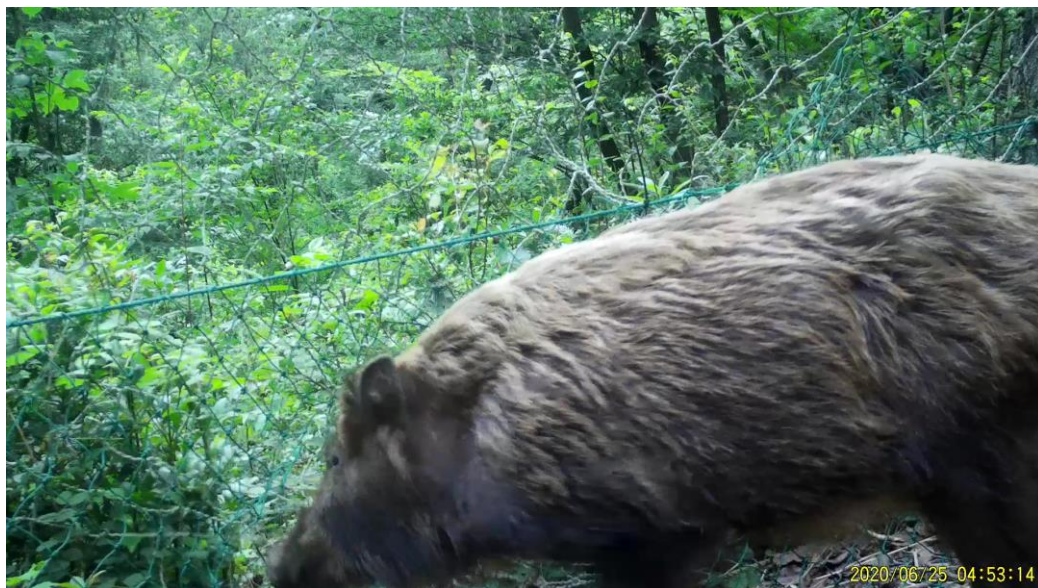
ネット
内側

ネット
外側

ネットを
張ってある
のに！

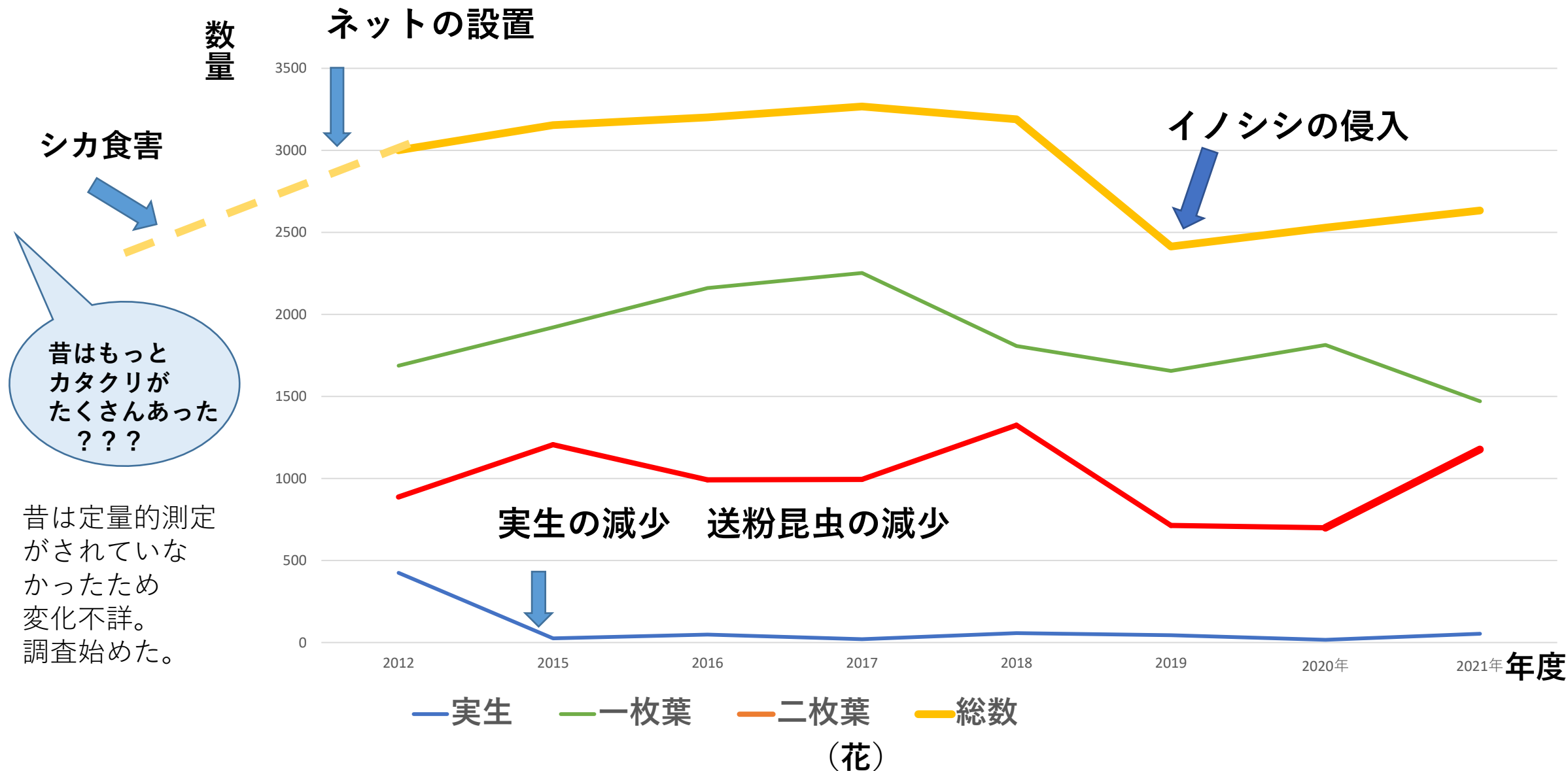
イノシシの侵入

えっ！！
どこから



ネットを破り ネットの下を掘り ネット内に侵入し 植物を根から掘り起こす

カタクリの数量変化



植物調査



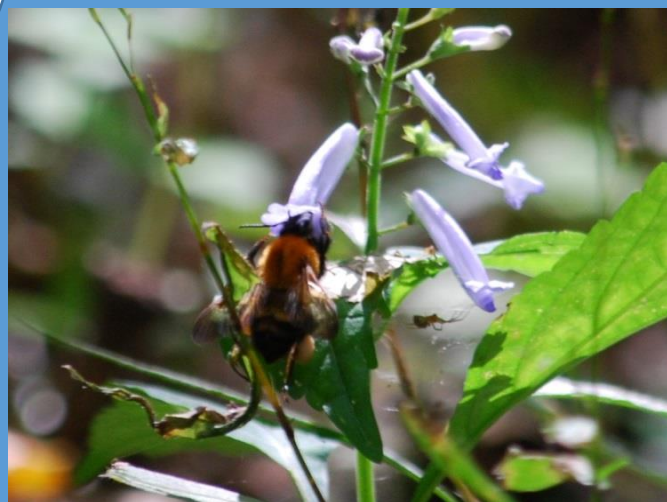
オトコヨウゾメ



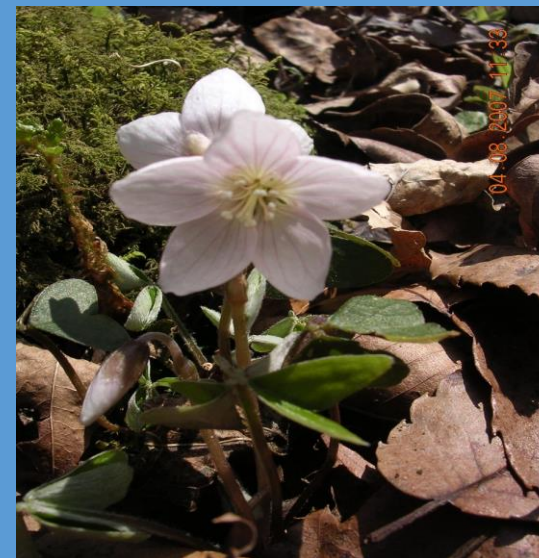
ミヤマナルコユリ



アキチョウジ



ミヤマカタバミ



ツルニンジン



イチリンソウ



ニリンソウ



イワナシ



キランソウ



ヒトリシズカ



シハイスミレ



141種の
花を観察

炭焼き跡の落葉 広葉樹林の維持

70年たったコナラ林の再生

子供たちによるコナラ林内
での植樹ドングリ撒き
いずれも育たなかった

陽の当たらないコナラ林内で
稚樹はたない

部分皆伐と植樹によるコナラ 林の若返り

伐採した樹の持ち出しや陽が当
たり繁茂したササの下刈りが
重労働



残置木の薪割り



下草刈り（炭の谷西側）

現在のボランティアの仕事

植物調査

- ・カタクリの数量調査
- ・その他色々な植物の変化の観察

獣の食害の対策

- ・ネット張り与管理

里山の手入れ（炭焼き時代の林に）

- ・コナラ林の管理

高齢木の若返り 常緑樹の伐採 倒木の処理 伐採木の処理

イノシシ対策のため カメラを設置



- イノシシのネット周辺での行動を調査



- イノシシ対策の効果を検査



- おまけ

ネット周辺の動物を観察



センサーカメラがとらえた小塩山のほ乳類14種



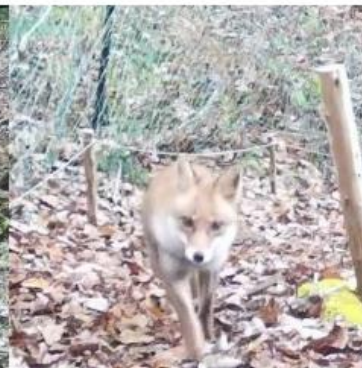
ツキノワグマ



イノシシ (ニホンイノシシ)



シカ (ニホンジカ)



キツネ (ホンドキツネ)



ハクビシン



タヌキ (ホンドタヌキ)



アナグマ (ニホンアナグマ)



テン (ホンドテン)



イタチ (ニホンイタチ+チョウセンイタチ)



サル (ニホンサル)



ノウサギ (ニホンノウサギ)



リス (ニホンリス)



コウモリ (種不明)



ノネズミ (アカネズミ+ヒメネズミ)

京都市西京区小塩山山頂付近のカタクリ保護地周辺に設置したセンサーカメラが捉えたほ乳類14種。撮影期間は2020年6月～2022年3月。

西山自然保護ネットワーク
イノシシ対策チーム



現在残された課題

- イノシシの侵入対策・・・モグレーヌ（鉄柵）によるネット補強
カメラによる行動調査
- ★ 結実率の低下（カタクリの種ができない）
送粉昆虫の減少・・・全国的な課題
解決策がまだ見つかっていない。
- ★ コナラ林の高齢化 薪炭林はおよそ20年周期で伐採更新していた
放置された里山 暗い常緑樹の林になり カタクリが生息できなくなる。
里山の手入れには多大な労働力が必要
- ★ ボランティア メンバーの高齢化 昔60歳だったメンバーが今80歳
若い力や会員を募集中だが・・・

自然保護と環境問題

- 生息環境の問題

- 土地開発による草原・林・田んぼ・畑の大幅な減少

- 農薬の多用による昆虫の減少

- 燃料革命による里山の放置・薪炭林の放置

- 地球規模の温暖化

- エネルギーと物質の大量消費が、地球温暖化を進行させていると同時に、生物の生息環境も悪化させて、生物多様性の減少を招いている。

自然保護団体として環境問題にどのようなかかわっていくか

おわり